
爆音のジェ

相櫨りわ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

爆音のジエ

【Nコード】

N9105E

【作者名】

相櫨りわ

【あらすじ】

見知らぬおじさんから高品質のスピーカーをもらったジエ。小説とは呼べないほどの短さ！！感動要素は含まれません！！爆音のジエという異名を持った男の、訳の分からない日々をつづった短編物語。

（前書き）

あらすじでも述べましたように、小説とは呼べないほどの短さと内容です。感動・恋愛・シリアス要素は含まれません。瞬間的に終わる小説なので、どうぞそれまでお付き合いを~~~~（強引）！！！！

ジェは歩いていった。と、向こうから何かがやってくる。

「誰？」

そいつは、ジェに、スピーカーをくれた。スピーカーは、高品質の、すごくいいやつだった。

初めは、ジェは、喜んでそれを持ち歩いた。でも。

スピーカーは、高品質のすごくいいやつだったけど、すごくうるさかった。遂に、ジェはキレた。

「うるさいお

！！！！！！黙ってお

！！！！！！

！！！！」（このキレ方！！！！）

しかし。スピーカーの音はますますうるさくなり、ジェはそのうち「爆音のジェ」と呼ばれるようになり、人々は「爆音のジェ」をうるさがった。騒がしい「爆音のジェ」は、毎日毎日キレていた。

ある日、爆音のジェは、とある細い道へ行こうと決心した。スピーカーをくれたやつと会った道だ。

と、向こうから何かがやってくる。スピーカーをくれたやつだ。爆音のジェは、そいつをちよっといじめた。だってム力つくんだもん！！！！

そいつは、大きな麦藁帽子を目深にかぶっていた。茶色のポンチョをひきずるようにして着ていて、緑のブーツをぶかぶかに履いたちっちゃな男だった。

「おいお前!!」

「何」

その人は、気のなさそうに答えた。爆音のジエは、むっとした。

「何じゃない!!お前人に爆音のジエとかいう変な名前付けさせやがって!!」

「………ねえ君、世界にマーマレードはあってもパーパレードがないのはなんでだと思うかい？」

「………は？」

すると、突然そいつはポンチョを脱ぎ捨て、かつたるい古ぼけたブーツをふつとばし、麦藁帽を爆音のジエの方へ放り投げた。爆音のジエがバツと麦藁帽を受け止めてそいつの方を見ると、真っ白な歯が、眩しく輝く。

「まっ、眩い!!その輝きは、パーパレードおじさん!？」

「そうともさ!!は　っはっはっは　　!!」

「なんだよお　　!!どうせそんなんだろうとは思ってたけど、ほんとにパーパレードおじさんだったなんて!!」

「は っはっはっはっはっはっ！パーパレードおじさんは、いつでもどこでも神出鬼没！油断するたび出てくるのさ！フッフッフ、はっはっはっはっは ！！！！！！」

そいつは、笑いながらジャンプしてどこかへ去っていった。爆音のジェは、感動したので、スピーカーを家宝にすると誓った。

T H E E N D . . .

. . .

（後書き）

はい、めっちゃくちゃな小説でしたね！

こうして爆音のジエは一生爆音のジエと呼ばれることとなりました。
パーパレードおじさんの正体やいかに！？ この疑問は解消されま
せん！知りたい方はお知らせください（いねえ！！）

では、これからもどうぞよろしくお願いします！

じ・えんど

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9105e/>

爆音のジェ

2011年1月16日09時40分発行